

# 新型コロナウイルス感染症第7波で感染し自宅・施設療養となった人の救急搬送の実態

○西田大介 田中佐和子 寺尾敦史 (滋賀県東近江健康福祉事務所)

## 目的

新型コロナウイルス感染症(以下「新型コロナ」という。)第7波では感染者数が増加し、中等症でも入院できない人が出るなど、多くの人が自宅・施設療養となった。しかし、自宅・施設療養中の人が、症状が悪化し救急搬送されるケースも散見されたが、その実態は明らかになっていない。本研究では、新型コロナに感染し、救急搬送された人の実態を明らかにし今後の療養者支援対策の基礎資料とすることを目的とする。

## 研究方法

1) 研究対象者 東近江保健所管内で、令和4年7月1日～9月20日に新型コロナに感染し自宅・施設療養中に東近江消防が救急搬送した所在地があった延べ119人

2) 研究方法 新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム(HER-SYS)から、救急搬送された人の年代、性別、発病から救急搬送までの期間、発生病受診時の重症度、救急搬送後の入院の有無を抽出し記述統計量を求めた。また、救急搬送された主な理由(症状)を1人3つ以内で抽出した。

**倫理的配慮** 個人が特定される個人情報(住所、氏名等)や、医療機関・施設名は使用しないように配慮した。

## 結果

### 1) 性別・年代別内訳と搬送結果

性別は男性47人(39.5%)、女性72人(60.5%)、年代別内訳は10歳未満20人(16.8%)、10代5人(4.2%)、20代10人(8.4%)、30代13人(10.9%)、40代6人(5.0%)、50代6人(5.0%)、60代4人(3.4%)、70代14人(11.8%)、80代17人(14.3%)、90歳以上24人(20.2%)であった。搬送結果は、入院51人(42.9%)、受診のみ68人(57.1%)で年代別搬送結果は、図1の通りであった。

### 2) 救急搬送された人の発生病受診時の重症度

無症状1人(0.8%)、軽症91人(76.5%)、中等症Ⅰ11人(9.2%)、中等症Ⅱ14人(11.8%)、不明2人(1.7%)であった。

### 3) 発病日から救急搬送されるまでの期間

発病から救急搬送までの期間は1日以内52人(43.7%)、3日後19人(16.0%)、2日後14人(11.8%)で多く、最長は13日後であった(図2)。

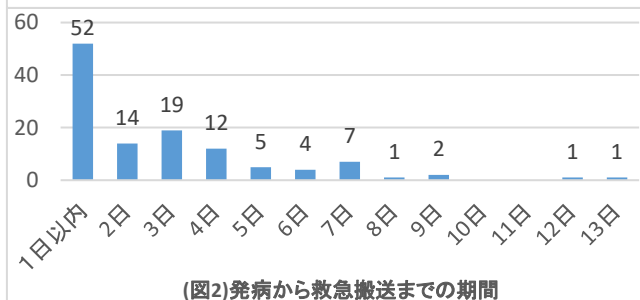
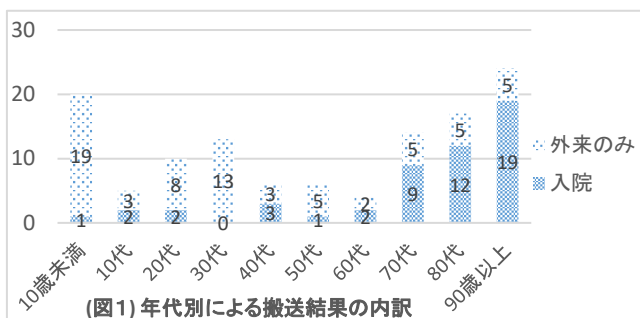
### 5) 搬送の理由

#### (1) 29歳以下の搬送理由(複数選択)

29歳以下35人のうち搬送理由が記載されていた28人の理由は、高熱が14人(50.0%)、呼吸苦7人(25.0%)、痙攣・てんかん5人(17.9%)、腹痛4人(14.3%)、嘔吐3人(10.7%)、動作困難、食事・水分摂取困難、発赤・発疹、脱水が各2人(7.1%)、頭痛、顔面蒼白、胸痛、下肢の痛み、頻脈、過換気、眩暈、喉に薬がつまるが各1人(3.6%)であった。

#### (2) 70歳以上の搬送理由(複数選択)

70歳以上54人のうち搬送理由が記載されていた44人の理由は、SpO2低下22人(50.0%)、高熱14人(31.8%)、呼吸苦11人(25.0%)、倦怠感6人(13.6%)、嘔気・嘔吐5人(11.4%)、食事困難、動作困難が各4人(9.0%)、脱水、胸痛が各2人(4.5%)、肺炎、腹痛、下痢、血圧低下、転落が各1人(2.3%)であった。



## 考察

本研究結果から、発生病時に軽症であっても自宅・施設療養中に救急搬送されていることが明らかになった。

年代別にみると、90歳以上の高齢者が24人(20.2%)と最も多かったが、次に多かったのが10歳未満の20人(16.8%)で、若い年代でも救急搬送されていた。

70歳以上の高齢者は搬送後入院している人の割合が高く、SpO2が低下している人が22人(50.0%)と多かったことから、搬送が遅れると命を落とす危険性が高いと考えられる。一方、29歳以下では救急搬送後の入院の割合は低かった。29歳以下の搬送理由では高熱が14人(50.0%)で最も多く、次いで呼吸苦が7人(25.0%)で多かったが、SpO2が低下した人はいなかった。また、痙攣や腹痛、下痢など搬送理由は多岐にわたっていた。

新型コロナの療養期間中は、気になる症状があっても、気軽に受診することができず、自宅で様子を見ている間に救急搬送になってしまった可能性がある。コロナ療養中に高熱が続いた時や気になる症状が出てきた時に相談できるよう相談先の周知を行うとともに、受診ができる体制を整えていく必要がある。

発病後、救急搬送となる期間は1日以内が52人(43.7%)で最も多かった。保健所は、発生病を受診後、早期に疫学調査を行い、必要な感染者には受診調整をすることが重要である。

令和4年9月26日以降は、自宅での療養期間は7日間に短縮されているが、発病後8日以上経ってから救急搬送されている人がいた。また、8日以上経て搬送された理由に食事困難や脱水の人がいた。症状が軽快しているか食事や水分が摂れているか、地域の支援者は継続して確認していく必要がある。

## 終わりに

新型コロナはオミクロン株が主流になって以降、重症化率は低下しているが、感染者数は増え、救急搬送される人数は増加している。医療や地域の関係機関と連携して、感染者やその家族が相談でき適切に医療に繋がられる体制を整えていきたい。